



## 食道静脈瘤に対する内視鏡治療 レジメの開発

瓦谷 英人

Hideto Kawaratani

消化器内科学／講師

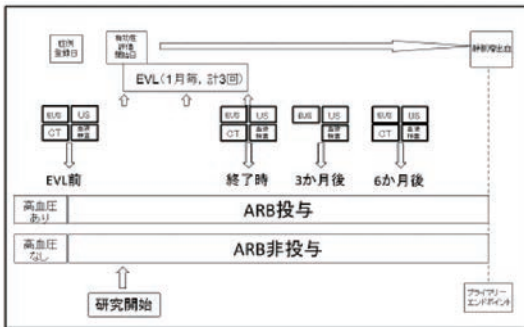
■キーワード 肝硬変、食道静脈瘤、内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)、アンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)

### シーズ概要

食道静脈瘤に対する治療法としては結紮術 (EVL) と硬化療法 (EIS) の内視鏡的治療が第一選択ある。治療の簡便さ、術後合併症、侵襲性の観点から最近では EVL が選択されることが多い。再発率は EVL と較べて EIS が優れているが、EIS は熟練を要する治療である。

アンジオテンシン受容体拮抗薬 (ARB) は高血圧患者に広く使用される薬剤であるが、肝硬変患者の門脈圧を低下させることが報告されており食道静脈瘤治療に補助的な役割を果たす可能性がある。

EVL の治療スケジュールの工夫や ARB などの薬物を併用することで、EIS と遜色ない治療成績が得られれば EVL がより普及すると考えられる。われわれは EVL 治療と ARB を用いた薬物療法の組み合わせによる今までにない静脈瘤治療スケジュールを開発することを目標としている。



### 研究成果の応用可能性

今後は、ARBに加え、門脈圧を低下させる薬剤を併用することによりEVLでもEISに匹敵する治療効果が得られるものと考えます。

### Appeal Point

アピールポイント

食道静脈瘤治療に対してより簡便で有効な治療法の確立を目指しています。門脈圧を低下させる新規薬剤の使用も考えておりますのでお声がけ下さい。